

第189回くらしの植物苑観察会 2014年12月20日(土)

—サザンカの魅力—

箱田 直紀 (恵泉女学園大学名誉教授 日本ツバキ協会会長)

サザンカの園芸種は九州や四国などの野生種から生まれました。その基になった野生サザンカは白花ですが、江戸時代の初め頃から次々と現れた園芸種には、桃色や紅色花があり、最近では八重咲きの華やかなものも増えてきました。どこにでも植えられているごくありふれた花ですが、日本特産ということも併せてサザンカの魅力と楽しみ方について考えてみましょう。

1. 昔ながらのサザンカの季節

サザンカ本来の開花期は10~12月です。晩秋から冬へ向けて季節の移り変わりに追われる人々の姿を背景に、吹き始めた木枯らしの中ではらはらと花びらを散らすというのがこの花のイメージだったように思います。しかしこの50年ほどの間に庭や公園で咲くサザンカのイメージは随分と変わってきました。

2. 花形の変化と冬咲きのサザンカ

最も大きな変化は、今まで日本庭園や生垣の中などでひっそりと咲いていた白や桃色の一重のサザンカに加えて、八重や千重咲きの品種が急激に増えてきたことです。この時期になると園芸店に並ぶサザンカの苗はおそらく半数以上が八重咲きで、それらの多くが厳寒期まで花を咲かせ続けます。結果として、晩秋の花サザンカの開花時期は冬のほうに拡張することになりました。



野生サザンカの花



八重咲きの「昭和の栄」

オーストラリア生まれの
ベアトリス・エミリー

3. サザンカの花の香り

サザンカの花の多くにはかなり強い芳香があります。しかし、秋から冬は花の香り成分の拡散も抑えられ、さらに人間の嗅覚も鈍るらしく、花に香りがあることに気が付かない人も多いようです。同じ季節に咲くチャノキの花も快い香りを持つので再度意識して味わってみて下さい。

4. 鉢植えで楽しむサザンカ

熊本で発達した肥後サザンカを除いて、サザンカを鉢植えで楽しんだというような記録はほとんどありません。しかし、歴博のサザンカは基本的には鉢植えで育てています。最大の理由は、たくさんの品種を植えるだけの場所がないということですが、今では多彩なサザンカを楽しむにはむしろ鉢植えがよいと考えています。その理由は、数鉢ずつ育てておけばよく咲いている鉢を移動させて眺めることができ、それ以上に、真冬に咲くような品種でも、霜が避けられる軒下などに並べておけば花が楽しめることです。最近ではそのまま鉢仕立てできるようなポット苗が出回っていますので、狭い場所でも寒い場所でも冬の花として楽しんでみてください。ただし、サザンカの鉢植えは暖房のきいた室内に持ち込むと急激に花が咲き進んで早く散ってしまいます。鉢は霜が直接あたらない程度の寒いところに置きましょう。

5. サザンカの生け花

鉢植えと同じ理由で、花やつぼみのついたサザンカの切り枝を温かい室内に持ち込むと、花が咲きすすんで、その日の内か翌日には散ってしまいます。そのためサザンカの花が茶花や生け花に使われることは少ないようです。しかし、私の知る華道の家元がサザンカの枝を生けてくれました。花器に挿した枯れ枝まじりの枝先には、散り残った2枚ほどの花びらと散る寸前の雄しべの一群だけが残っていました。私だったら花びらがほとんど散ってしまった枝はゴミ箱入りと考えるので、サザンカのイメージとその花の動きのとらえかたに感服した経験があります。きわめて短い時空間での生け花なのかもしれませんが、皆さんも一度挑戦してみてください。

6. 落花や花の散る姿を味わう

京都の大徳寺塔頭に龍源院という古刹があって、その前庭には後水尾天皇寄進の石灯籠と並んで「楊貴妃」という銘がついた紅花一重のサザンカがありました。樹齢400年以上といわれたその古木は、次第に衰弱して20年数年前に枯死したのですが、株元を覆った緑のコケの上に散り敷く紅い花びらを觀賞するのだときかされました。また、同じく京都の詩仙堂にも推定樹齢450年といわれた白花サザンカの大木がありました。こちらは1995年1月の阪神淡路大



ありし日の龍源院の「楊貴妃」

震災で倒れて枯れ、時代の移り変わりを感じさせたのですが、詩仙堂の庫裏に座ると屋根の上を覆ったサザンカの花は直接視野に入りません。掃き清められた砂の前庭に散り行く純白のサザンカを観賞するのだそうです。大海原に散る雪景色をイメージするときいたような記憶がありますが、サザンカ独特の観賞法だったのかもしれない。

7. 新しい品種や外国から里帰りしたサザンカ

日本でのサザンカ観賞の歴史はおそらく450年以上におよびますが、江戸時代や明治期までのサザンカは不完全な八重咲きがあっても、ほとんどが一重咲きで、今日多く見られるような八重や千重咲き品種が全国に広まったのは1955年（昭和30年代）頃からです。さらにその中には昭和初期頃に海外に渡ったサザンカから生まれた外国産品種も混じっています。この植物苑にはこのような新花もたくさんありますから、古典的なサザンカから近代的なものまで併せて観賞しながら、さらに、時代の移り替わりにまで想いを馳せてみてください。

.....

次回予告 第190回くらしの植物苑観察会 2015年1月24日（土）
「気仙沼尾形家の年中行事と植物」川村 清志（当館研究部民俗研究系 准教授）
13:30～15:30（予定） 苑内休憩所集合 申込不要